



2015-2016年度 R.I. テーマ



「篆刻」石崎 巖 会員



- ◆ 会長 木下 茂 ◆ 幹事 宮崎 繁幸
- ◆ 発行 会報委員会 2月担当 柴 垣

第2345回例会 2月16日(火)

- ◆ 点 鐘 木下 茂 会長
- ◆ 司 会 佐々木祐司 幹事代行
- ◆ ローターソング 「それでこそロータリー」
- ◆ 出席報告 (南副委員長)
 - ・ 出席率 会員30名中(出席免除者2名) 15名 53.57%
 - ・ 欠席者 芦崎さん、畠山君、石崎君、窪田さん、慶野君、小林君、宮崎君、長田君、扇谷君、鈴木君、関君、富川君、吉野さんの諸君
 - ・ 前々回 (2343回) の修正 なし
- ◆ ニコニコボックス

今週までの合計額 446,500円



創立1968年 (昭和43年) 5月27日 [第2610地区内創立順位19]

例 会：火曜日 12:30 於. にいかわ信用金庫本店5 F TEL (0765) 24-1155 第3例会 18:30 於. 喜楽 TEL (0765) 22-0715

第2346回例会 2月23日(火)

- ◆ 点 鐘 木下 茂 会長
- ◆ 司 会 宮崎 繁幸 幹事
- ◆ ローターリーソング 「我等の生業」
- ◆ ゲスト
朝日ロータリークラブ
黒部中央ロータリークラブ

ハッピーバースデー

- ・ 2月14日 横 谷 夫人
- ・ 2月23日 南 夫人

◆ 会長挨拶

2月6日の台湾南部で起きた地震は、地上16階の高層集合住宅が倒壊し、多数の死傷者がでました。

鉄筋不足などの手抜き工事に加え、低層階の所有者による壁撤去など、内部改築も原因と指摘されています。

ロータリークラブのつながりは、6月の金沢での日台親善会議もあり、義援金の要請がきています。

2月21日日曜日、裏千家淡交会魚津支部の初点式に行ってきました。

濃茶席は床に鵬雲斎筆の軸「安分以養福」を掛け、花入れには寒ボタン、お菓子は花びらをイメージした桃色で春間近の風情を演出して、みなさんをもてなしておられました。

現在県内で茶道を楽しむ人の数は、各流儀の会員と愛好家を含めると3万人以上と推測されます。

400年前の茶の湯は、公家、戦国武将、大名そして豪商などでした。

明治維新でこれらの階層が消滅または衰退し、女学校の礼法の中に教育の一環として取り入れられたのが、今日の姿かと思われまます。

又、昨日富山労災病院へ木谷院長を訪ね、新築中の施設の工事状況、移設開業予定、西ロータリー文庫の設置時期等を話してきました。

◆ 出席報告 (南副委員長)

- ・ 出席率 会員30名中(出席免除者2名) 19名 67.85%
- ・ 欠席者 畠山君、石崎君、慶野君、牧野君、宮田さん、長田君、鈴木君、富川君、吉野さんの諸君
- ・ 前々回 (2344回) の修正 なし

◆ 幹事報告

- ロータリー米山記念奨学会より
- ・ ハイライトよねやま191
- 北陸財務局より
- ・ 講演会の開催について
- ガバナー事務局より
- ・ 寄付推進&補助金ニュース
- TNK東日観光株より
- ・ 2016年国際ロータリー年次大会 (ソウル大会)

参加旅行募集案内送付のご案内

- 砺波ロータリークラブより
- ・ 2016-2017年度のための地区研修・協議会登録者名簿および送金明細書
- 魚津市ゴルフ協会より
- ・ 第35回魚津市民ゴルフ大会後援のご依頼について
- 朝日ロータリークラブより
- ・ 朝日ロータリークラブ創立50周年記念式典のご案内

☆ 3月度例会案内

	活 動 内 容	例会場
3 / 1 (火)	卓話担当：牧野君 理事会	信金5階
3 / 8 (火)	卓話担当：吉田君 Rの友・R情報	信金5階
3 / 15 (火)	夜間例会	喜 楽
3 / 22 (火)	卓話担当：森君	信金5階
3 / 29 (火)	卓話担当：会長エレクトPETS報告	信金5階

★ 3月のSAA補助

三浦君・関君の諸君です。よろしく願います。

◆ ニコニコボックス

- ・ 朝日ロータリークラブ様：創立50周年記念式典の登録のお願い 志
- ・ 黒部中央ロータリークラブ様：IM広報活動 志

今週までの合計額 464,500円

◆ 卓 話 「更紗のきもの」(三代目更勝)



横 谷 正 晴 君

2010年から京都の創作問屋の事業を引き継いだお話は、昨年の卓話の時に紹介させていただきましたので、今日はいろいろ制作しているうちのひとつ、更紗のきものに絞ってお話します。

更紗が日本に渡って来たのは16世紀ごろといわれています。インド更紗、ジャワ更紗、描かれた異国の花鳥風物に、またそれらが布全体を埋め尽くす華やかな意匠に、当時の人々は熱狂的に受け入れたそうです。

戦後、それまでは手描きが主流だった更紗を現在の数多くの型紙を使用する型摺りの江戸更紗として完成させたのが三代目青木新太郎氏。

今は四代目となっています。

摺り染めで、着尺で型紙を40~50枚も使用し染め重ねていきます。訪問着ともなると200~300枚の型紙を使います。

そのため深みのある色、柄の表現ができるのです。

そして今、東京の青木氏と相談しながら、新しい色合いで更紗を制作してもらっています。



